

Information

贈賞式を開催



受賞の喜びを語る柴田一氏

平成20年度の福武哲彦教育賞・谷口澄夫教育奨励賞の贈賞式を5月16日（金）、岡山プラザホテルで開催いたしました。選考委員をはじめ、教育関係者、報道関係者、財団役員など約60名の方々にお祝いをさせていただきました。

教育賞を受賞された柴田一氏は、「小学校の頃、校長先生に賞をいただいたような気持ちで童心に戻った感じ。元気をもらい、枯れ木に花が咲いたよう。」と喜びを語られました。また奨励賞を受賞された明誠学院高等学校チアリーディング部GAIASの代表として壇上に立ったキャプテンと副キャプテンは、「信じれば必ず夢は叶う。この言葉をいつも胸に私たちと出会った人々を少しでも楽しい気持ちにさせてあげられるよう頑張っていきます。」と元気いっぱいコメントし、会場から応援の拍手が贈られていました。

贈賞式終了後、受賞者を囲んだ記念懇親会があり、華やかなお祝いムードに包まれていました。



受賞者を囲んで



メダルと賞状

■「オーストラリアTAFE研究」今秋はブリスベンを中心に

遅れている日本の職業教育に新しい風を起こすために、当財団ではオーストラリアの進んだ職業教育専門学校TAFE（Technical And Further Education）の研究を始めています。

昨年は岡山県内の教職員等25名で、シドニーにあるTAFE-NSWの5校を訪ね、TAFEの教育システムや学校と社会との関わりなど探り、これからの日本の職業教育のあり方をはじめ、TAFEへの留学の方法などについて学びました。

TAFEへの留学の窓口としては、岡山市にGCA（グローバル・キャリア・アカデミー）があり、今春は10人の留学生を送り込んだほか、8月には高校生25人をTAFE留学のプレ体験のために派遣するなど活動を続けています。

当財団は今秋に再び教職員を派遣して、さらに深くTAFEを研究することにしており、現在スケジュール調整など行っています。派遣先はクイーンズランド州のブリスベンにあるTAFEで、学生たちの中に入って授業を受けTAFEの実践的教育方法など学ぶことにしています。世界がよりグローバル化する中で、岡山県が国際社会に対応できる職業教育の先進県として躍進するために、財団としても応援したいと考えています。

■文化活動助成贈呈式および発表会のお知らせ

平成20年度文化活動助成対象者の贈呈式および平成19年度文化活動助成対象者による発表会を開催いたします。なお、発表会は一般の方も参加できます。詳しくは、財団へお問い合わせ下さい。

日 時 平成20年9月20日（土）
贈呈式 13時30分～
発表会 14時00分～
会 場 岡山プラザホテル（岡山市浜）



[特集1]

展

教職大学院プロジェクト

開

[特集2]

語

犬島のヤマトシジミは何を

る



廃校となった校舎を利用

岡山県のほぼ中央、かつて「全国へそのまちサミット」に加わっていた吉備中央町(旧加茂川町)に学校法人「おかやま希望学園」の「吉備高原のびのび小学校」と「吉備高原希望中学校」がある。名前の通り、吉備高原の懷に抱かれるように立地している。岡山市内から車で1時間、約40キロメートルの距離ながら、標高はおよそ350メートルもあり、遙か眼下に雲海を望むこともあるという。

この地に「吉備高原のびのび小学校」が開校したのは平成7年。廃校となった旧加茂川町立津賀西小学校の校舎を利用している。子どもの学習意欲や個性をよりどころに、教科や学年の壁を取り払った寄宿舎制の小学校である。開校当時は岡山県を中心として東京・大阪・広島などから28人の子どもが「生活すべてが学び」をスローガンに生活を始め注目を集めた。

「希望中学校」は日本財団から1億8000万円の援助を受けて、平成12年4月に開校し、設立以来の念願だった全寮制の小・中一貫教育がスタートしている。



中学校は全寮制の中・高一貫教育

自然に恵まれた吉備高原からの教育発信 全寮制を基盤にした個性尊重の人間教育

開校以来、公立の学校になじみにくい不登校児や発達障害児を中心とした子どもたちへの教育・生活支援が認められ、平成16年には『文科省教育改革モデル事業』に指定された。続いて、平成17・18・19年度『文科省研究開発学校』にも指定され、学園挙げて研究を進めてきている。

子どもたちは「生き方プログラム」を通して、自分自身の人生を切り拓いていく基盤となる・基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ご飯)・社会的な生活習慣(あいさつ・返事・はきもの整理)・学習習慣(読み・書き・計算・夢づくり)の3つの習慣形成という目標に向かって、日々努力をしている。

本年度は、当財団の「個性的教育を推進する地区・校」助成を受け、全寮制の学校で学ぶ子どもたちにとって、地元吉備中央町が「第2のふるさと」になれるような「地域連携」に取り組むそうである。

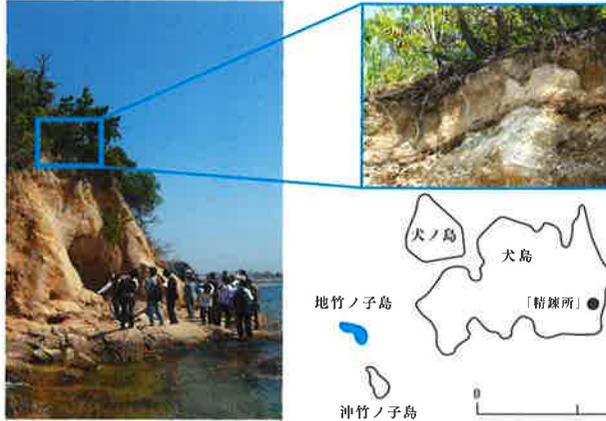
夢と希望、そして人への優しさを持つ人づくりを目指す、全国にもまれでユニークな学園があることを1人でも多くの先生と保護者に知って欲しい、そして1人でも多くの子どもたちが山懷で温かく生まれ、挫折を克服し、希望をもって未来へ羽ばたくことを祈りたい。(財団・赤松)



学習習慣の形成も大切な柱の一つ



学校の田んぼは全校で田植え



4月にオープンした犬島アートプロジェクト「精錬所」に続き、さらに犬島が熱い。犬島本島の西にある「地竹ノ子島(じたけのこじま)」で、約1万年前の縄文時代早期のものとして推定される貝塚の調査が、本格的に始まったからだ。犬島貝塚は、約30年前、岡山市西大寺の小野伸さんたちが発見していたが、今回ようやく本格的な研究の手が入る。

犬島貝塚調査保護プロジェクトチームには、国立歴史民俗博物館や大学の専門家、そして犬島の住民も加わり、当財団が助成をしている。チームの代表者・遠部慎さんにお話を伺った。

調査保護プロジェクトチームに聞く

—初めて犬島貝塚を見たときの感想はいかがでしたか？

「たまたま地元の研究者と知り合い、昨年12月に現地に行きました。船から貝塚が見えた瞬間にウォーと大声が出ました。こんな素晴らしい遺跡が残っていることが信じられませんでした。瀬戸内に残る最古級貝塚の中では最高の保存状態です」

—犬島貝塚の研究で何がわかるのですか？

「最近、豊島など島嶼部の貝塚の調査を進めています。瀬戸大橋から牛窓の間の地域が空白地帯になっていました。犬島貝塚でこれが埋まることによって、瀬戸内での汽水域の成立や瀬戸内海の誕生の様子が分かってくるのでは、と期待しています」

—犬島貝塚のヤマトシジミは汽水域育ちなのですか？

「そうです。宍道湖のような海とつながった広大な汽水湖があったと考えています。ヤマトシジミは、そういう環境でしか生きられません。ですから、貝塚の分布と貝や土器の年代測定によって、湖がどのような広がりをもっていたかが分かります」

瀬戸内海誕生の解明に膨らむ期待

犬島のヤマトシジミは何を語るのか！

—その汽水湖が広がって瀬戸内海になったのですか？

「そのころ温暖化の影響で、どんどん海水が流入して環境が劇的に変化し、最後は東西の湖がつながって瀬戸内海になりました。人々はそれに柔軟に対応したのでしょうか」

—発見者の小野さんにひとこと。

「小野さんは、高校生の頃から島に渡って調査し、収集した土器などもきちんと整理しています。特に地竹ノ子島は侵食が進み、以前の形がなくなっている中で、小野さんの記録は重要です。その貴重な資料を現在分析させてもらっていますが、とても感謝しています」

—今後、人は貝塚とどのようにかわればいいのでしょうか。

「遺跡は、記憶や記録が途絶え、人が行かなくなると、木や草が生え風化して荒れてしまいます。また、位置図だけで見つけるのは困難です。それを知っている(人)が大事なのです。しかし、情報は15年から25年ぐらいで伝わらなくなってしまいます。まず、地元犬島の皆さんに貝塚を知っていただき、次の世代に伝えてもらいたいと思っています」

—今、犬島は元気です。

「精錬所で多くの人々が来るようになりました。犬島時間というイベントもあります。島の人も元気です。いろんなチャンスを捉まえて、この貝塚のことを宣伝したいと思っています。犬島は、ものすごく多くのテーマがある島です。犬島貝塚もそのテーマの1つになればと思っています」



犬島貝塚調査保護プロジェクトチームのメンバー。左から小野さん、遠部さん(代表)、権原さん、久本さん

瀬戸内海の小さな無人島。その崖に1万年の間ひっそりと眠っていた貝塚。このままでは風雨にさらされ、貝たちはまた水の中に戻ってしまう。チームでは、貝塚を保護する方法も検討するという。ヤマトシジミの白く薄い唇は何を語ってくれるのだろうか。(財団・中野)

Cover Photograph



写真 人見文男

730年続く奇祭—護法祭(美咲町・両山寺)

岡山県美咲町・二上山両山寺に法螺貝や太鼓の音が響き渡り、呪文の声が高まる。山奥の聖水で水垢離を取るなど7日間の修業をした護法実が黒い股引と卍のついた法被をつけ、頭に白紙の冠を被り、榊の葉を手に神の憑依を待つ。盂蘭盆の8月14日深夜。呪文、太鼓、法螺貝が一段と高まり、山伏の加持祈祷が頂点に達しようとする時、いきなり護法実が本堂を飛び出し、境内を駆け巡り始める。神の使い“鳥”が憑依したのである。護法実は手を広げ、まるで羽ばたくような所作で疾走する。悲鳴を上げて逃げ惑う参詣人。少しでも触れると3年以内に死ぬという言い伝えが恐ろしい。

真言密教の加持祈祷と日本古来の山岳信仰の霊威と呪力が結びつき、五穀豊穡を祈る全国的にも珍しい奇祭。730年にもわたって山間の檀家に守られてきた。神の使いの憑依となる護法実は、信心深く、真面目で温厚な信徒から選ばれる。かつては二上山を中心に6カ所で行われていたという。今は3カ所にしか保存されていない。山村に暮らす人々の減少は、奇祭を守る人々の減少でもある。

Editor's comments

今季号の特筆すべき特集は、瀬戸内海誕生の大きな手がかりとなる「犬島貝塚」の調査と保護に取り組むプロジェクトリーダー・遠部慎氏(国立歴史民俗博物館研究員)の新鮮なインタビューです。

先の台風16号で崩壊をはじめている「犬島貝塚」の存在を知った遠部氏が、当財団に相談を持ちかけ、貴重な貝塚を守るためのプロジェクトチームを発足させたのが始まりでした。今年3月始めのことです。当初は貝塚のある「地竹の子島」の地主が判らなく、保存のための発掘調査の目途すらたっていませんでした。しかし6月上旬にそれも解決し、いよいよ発掘調査に向けてのスケジュールが動き始めました。最新式の三次元計測機を使った調査資料を基に発掘場所を設定し貝層の実態を探り出すことで、瀬戸内海が数千年をかけて真水から汽水、そして海水へと変化していく状況が浮かび上がることが期待されています。

この春から活躍を始めたN氏がインタビューをまとめました。

もうひとつの特集は、「岡山大学教職大学院」のスタートに合わせて、当財団が大型の助成をして研究する“学校力向上プロジェクト事業”の内容に切り込んでいます。この特集はK女史が初めて担当しました。

「不易」のスタイルが変わって今季で早くも4回目。職員全員で取り組むシステムも定着してきています。温かいご支援をいただきたくお願いいたします。(S)

教育現場が抱える課題に「理論と実践の融合」で

時代にあった教員養成を目的とする「岡山大学の教職大学院」がこの春創設され、その核ともなる「学校力向上プロジェクト事業」が動き始めました。

教職大学院はこの春全国19大学に設置され、岡山大学大学院の教育学研究科教職実践専攻が、中国地区では唯一の教職大学院として創設されました。今年度は、岡山県教育委員会から派遣された10名の現職教員と学部を卒業した10名の新卒院生の合計20名でスタートしています。

この教職大学院設立の背景には、児童生徒の学力低下、学級崩壊、いじめ、不登校、モンスターペアレンツの問題など昨今の学校現場が抱える課題の複雑化、多様化によって、従来の指導方法では限界が見えていること。また授業の手法や子どもとのコミュニケーションに課題を抱える、いわゆる「指導力不足教員」が増加していること。さらに、かつての大量採用期に採用されたベテラン教員が退職期を迎えている中で、優れた若手教員をどう育てていくかという極めて重要な課題が山積していることなどがあげられています。

こうした背景の中で新しくスタートした岡山大学の教職大学院の核として「学校力向上プロジェクト事業」が展開されています。これは従来の学部や院が研究者を育てる場であったのに対して、学校現場での実践を通して、課題の発見や分析能力、チームによる解決力や解決策を企画する力などを育成し、その成果として学校力の向上を目指そうというもので、このための実践現場として、今年度は岡山市石井学区



高橋研究科長



の小中4校と、岡山中央小・中学校の計6校の協力を得て事業に取り組んでおり、当財団としてもその成果を期待し、大型の助成をして支援しています。

岡山県教育委員会から派遣されている現職教員の院生は、初年次ではそれぞれ所属している現任校での課題を教育実践研究のテーマとして取り上げて研究し、大学院2年次においては学校現場での課題解決と検証を指導教員と共に行うことで、それぞれの学校力の向上を目指す目標を立てています。

この春学部を卒業して現職教員と共に学んでいる院生のひとり、岡崎亮人さんは「現職教員の方と同じ場で学ぶことで、短期間の教育実習では見えない学校の側面が見えたり、大学で学ぶ理論とは別の、経験から得た意見が聞けることがとても新鮮」、院卒業後は中学校での採用が決まっており「熱くて冷静な先生になりたい!」と力強く話していました。

理論的には的を得ていても、実践では受け入れられない理論も存在します。

今回お話を伺った教職大学院の高橋研究科長をはじめ、院生たちの考え方などを通して、始動したばかりとはいえ、教職大学院の持つ学校支援機能をフルに活用することで、「学校力向上プロジェクト事業」が目指す「理論と実践の融合」への期待感が湧き上がるような気がしました。

かつて「教育県」と言われた岡山から、豊かな教育の土壌が広がっていくことを願っています。(財団・梶田)



院生による教育実習

教職大学院

学校力向上プロジェクト展開